

患者さまへのお知らせ・お願い

ロビーコンサートのお知らせ

- ◆ 2月21日(水) 研修医小野・斎藤・吉田・野澤 当院研修医4名が頑張ります。
- ◆ 3月16日(金) 池内 光子さん (アコーディオン演奏会)
- ◆ 26日(月) 丹羽 千夏さん (ピアノ演奏会)
- ◆ 5月 9日(金) Happy Together (うたのコンサート)

中央棟1階会計前ロビーにて、19:00より開催いたします。30分間の演奏会です。是非、お越しください。コンサート予定表は、各病棟掲示板および会計前ロビーにて掲載しております。

曲目につきましては、コンサート当日、会計前ロビーにて掲示いたします。ご確認ください。

患者様からのご意見・ご要望

日々患者さまより頂きましたご意見・ご要望に関しては関連する部署の責任者に報告しております。改善すべき点や取り入れたほうが良いことなど出来る限り対応したいと考えております。ご意見の中で特に危険なこと、多くの方が希望していることを優先に対応したいと考えております。もちろん少数意見も対応させて頂いております。

前回に引き続き、今までのご意見の中で多くいただいたものや最近よくいただくご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせください。 (= 進捗報告)

ご意見・ご要望	改善等
エレベーターについて	『こんなに大規模なのに、小型のエレベーターが3基しかなく、休んでいる時もある。病院関係者は別のエレベーターがあるので不便を感じないのか一般のお客様の身になって考え改善をして欲しい。』とのご意見をいただきました。 エレベーターの数が少なく当院をご利用の方にはご迷惑をかけております。中央棟で全階に着床する一般用エレベーターは3基です。ただし、地下1階から2階の外來階につきましては専用エレベーターが1基あります。その他エスカレーターもあり、外來階での移動についてはこれらの移動手段を使っただけをとお勧めします。また3基のエレベーターの右手側には階段があり、階段での移動に支障のない患者さまには、そちらもご利用していただけます。上下階の移動手段についての案内が十分出来ていないことから、掲示物を作成しお知らせをさせていただきます。業務用エレベーターについては職員が移動するだけでなく、スタッフが同伴し患者様のベッド、車椅子の移動や医療用品の搬送や、緊急性の高い患者様の移動に使用していることから、関係者以外の単独での利用は出来ませんのでご理解ください。
携帯電話の使用について	『最近院内でも携帯電話を許可している施設がありますが、北部病院は使用できるようにならないのでしょうか?』とのご意見をいただきました。 現在当院におきましては全館携帯電話の使用を禁止しており、ご不自由をおかけしております。ご意見をいただきました通り、昨今携帯電話を部分的に許可している医療施設が増えてきております。当院におきましても、使用できる方法を『サービス向上委員会』において検討を進めております。運用や実施時期等に関しましては、決定次第ご案内いたします。また、入院患者様のPC利用についても、ご意見をいただいていることから今後同委員会において検討していく予定です。

編集後記

今年は暖冬ようですが、バレンタインデーの14日の嵐は『春一番』のようで、昨年より20日も早かったようです。北部病院の周辺でも夕方から強風が吹き、駅に向かう患者さんが風で飛ばされないかヒヤヒヤしながら『午前中でなくて良かった』と様子を見ていました。例年この時期には雪が降ります。毎年1回は外來通院される患者様の安全確保のために、病院スタッフで朝に雪かきをするのですが、今年は雪の心配はしなくて良いかなと安心してあります。暖かいといっても寒暖の差が大きく体調を崩したり、また2月の中旬からは当院でもインフルエンザの患者さまが増加傾向にありますので、皆様も体調管理には十分心がけてください。

広報委員会 委員 中山 道広

北部病院だより 第45号
平成19年2月15日発行
発行責任者 田口 進(昭和大学横浜市北部病院長)
編集責任者 島田 誠(広報委員会 委員長)
発行 昭和大学横浜市北部病院
〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1
電話 045-949-7000(代表)
URL: <http://www10.showa-u.ac.jp/~hokubu/>
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』が参照できます。

北部病院だより 第45号

第45号【2007/2/15 発行】

発行者：昭和大学横浜市北部病院

巻頭言

『 “こころ” の病(やまい)の治療 』
メンタルケアセンター 助教授 堀 宏治

イベント情報

NST委員会勉強会

医師の配属・異動・退職

診療統計

外來担当表

患者さまへのお知らせ・お願い

ロビーコンサートのお知らせ

患者様からのご意見・ご要望



梅の香漂い、春の到来を感じますね。

巻頭言

『 “こころ” の病(やまい)の治療 』

私たちが所属するメンタルケアセンター(精神科、神経科、心療内科など)は“こころ”の病を治療する診療科です。私たちが診察、治療の対象とする“こころ”とは脳の働きの事です。つまり思考、感情、知覚、運動、自我などの機能やこれらの機能を統合する働きを指して“こころ”と言っています。専門的に言えば脳の働きつまり“こころ”は“心理”、“精神”などと言います。

“こころ”の病の中には統合失調症、認知症、うつ病、依存症、パニック障害、拒食症さらには人格障害などが含まれます。“こころ”の病の治療が難しい理由の一つに、“こころ”がこうした病気にかかった時に脳がどのようにになっているかまだ良く分かっていないところにあります。生きている人の脳を直接的に見ることができません。また、“こころ”が病気にかかった時に起こる症状を数量で表すことが出来ません。このために、“こころ”が病気になった時の症状は“こころ”の病の診療を経験した精神科医の先生方が感覚で主観的に、表現することしか出来ません。それでも、今まで多くの先人の先生方が血のにじむような努力をして“こころ”が病にかかっている時に脳の内がどのように変化しているのかを研究してきました。また、多くの先人の先生方が血のにじむような努力をして製造した脳に作用する薬(専門的には向精神薬と言いますが)の中で、どのような病に対して、どのような薬を処方すれば良いかを少しずつ明らかにしてきました。こうした知識を元に、私たちメンタルケアセンターの医者は“こころ”の病の治療(お薬の治療)を行っています。これから先、もっと良く効果を現す薬が開発されてくる可能性があります。こうした脳に作用する薬を処方して、“こころ”の病にかかった方々の脳の状態を出来るだけ正常(“こころ”の病にかかっていない状態)な状態に近づける努力をする必要があります。



メンタルケアセンター 助教授 堀 宏治

しかし、“こころ”病の治療はこうした薬物療法だけではありません。脳は実際に社会生活をして、成長してゆきます。幼稚園、小中学校、高等学校、大学や専門学校、会社、地域社会などそれぞれの“社会”の中で“実践生活”をして、多くの人たちとの“対人関係”を通して脳(“こころ”)は成長してゆきます。このため、実際の社会生活の実践をお手伝いすることも薬物療法と同じくらい大切な治療(お薬を使わない治療)です。このお薬を使わない治療は医者、看護師、心理士、作業療法士、ケースワーカーなど他の医療専門職の方々と連携しての治療になります。

このお薬を処方する治療とお薬を処方しない治療の“二本立て”治療が“こころ”の病の治療になります。今まで、“こころ”の病にかかった方は精神病院に入院させて治療をさせるものと考えられていましたが、現在は“こころ”の病にかかった方は社会の中で、地域社会の中で実際に生活してもらいながら治療するようになってきました。このように、“こころ”の病の治療は脳の治療になります。“こころ”は脳の中に存在するものなのです。

ところで、皆様方は2月14日のバレンタインデーに幾つぐらいチョコレートを送り、貰われたでしょうか。本気、義理は別にしても、“こころ”を込めたハート型つまり心臓型のチョコレートが行き来したと思います。メンタルケアの立場から言えば、本当はバレンタインデーのチョコレートは脳の形をしたのが正しいと思います。

北部イベント

NST委員会勉強会

病院の中には、いろいろな英語の略号があります。私たちのNSTは、栄養サポートチームの略号です。栄養サポートチームは、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・管理栄養士などいろいろな専門職種の人たちでチームを構成し、患者さまの状態に合わせた栄養の適正な補給法を検討し提言します。最近話題となっている「チーム医療」のひとつの型です。人間の身体の中では、栄養と免疫は密接に関りあっています。身体の栄養状態が悪くなると、免疫能も低くなることが知られています。また感染を起こしている場合は、より多くの栄養を必要としています。傷を治していくためには、栄養が非常に大きな役割を担っています。病院に入院される方の中には、食事が摂れないまま入院してきたり、病状で食事が食べられない方、また不十分であったりすることがあります。このような状態を放置すると、感染を起こしやすくなったり、傷が治るまでの時間が長くなったりします。さらには筋肉量は減少し、疲れやすくなったり、離床が遅れたりすることがあります。



講演風景

栄養は人間が生きていく上で必要であり、身体の中で合成できないものです。このため口から摂取できない場合、経管栄養や点滴などで栄養を補給しなければなりません。NSTは、その患者さまにとってどのような栄養法が一番今の状態にあっているのか(口から、胃から、点滴で・・・)、食事の形態はどのようなものが良いか、流動食や点滴の種類を考え、点滴は・・・、またどのくらいの量(カロリーやたんぱく質、ビタミン、ミネラル)が必要か、食べる機能(咀嚼や嚥下)はどうか?などの事項を検討し主治医・担当医に提案を行っています。

疾病の治療は、薬剤、手術など直接的な方法があり、効果をあげています。しかし栄養状態が悪いと先に述べたようなこと(合併症)が起こりやすくなります。したがって栄養療法(治療)は、どんな治療法であっても必ず基礎になっているものです。NSTは地道な活動ですが、患者さまが元気に退院し、健やかに過ごせるよう、影から応援する・・・そんなチームがNST(栄養サポートチーム)です。

私たちの病院ではまだ活動を始めたばかりのチームです。栄養の基礎や最新の技術を獲得するため、毎月一度勉強会をしています。この勉強会は、院内の多職種が参加しています。最終的な目標は、病院にいる誰もがNSTとなり、改めてチームが必要なくなることです。そんなことを目指して活動しています。

医師の配属・異動・退職

新規配属医師

2/1 付【1/2~2/1】

【新規採用】

【附属病院より】

椋澤 由博 (外科)
昭和大学
平成3年卒

村上 幸三(脳神経外科)
昭和大学医学部
脳神経外科学教室より

異動・退職医師

1/31 付【1/1~1/31】

【退職】

池田 宣昭 (消化器センター)

【附属病院へ】

杉山 幸一 (脳神経外科 医学部脳神経外科学教室へ)

診療統計

2006年11・12月統計データ()内は1日平均

診療実日数 入院・・・30日(11月) 31日(12月) 外来・・・23日(11月・12月)

	外来患者数	入院患者数	救急搬送数	手術件数
11月	31,252人(1,358.8人)	17,183人(572.8人)	434件(14.5件)	482件(25.4件)
12月	32,327人(1,405.5人)	17,496人(564.4人)	497件(16.0件)	500件(25.0件)

【訂正】

第44号で記載ミスがございました。大変失礼いたしました。下記のように修正させていただきます。

11月入院患者数 【誤】17,1835人 【正】17,183人

外来担当表

外来予定は都合により変更する場合がございますのでご了承ください。
平成19年2月1日改訂

	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	
呼吸器センター	医局員(初診) 北見明彦(再)	鹿間裕介(初診) 笠原慶太(再)	中島宏昭(紹介初診) 笠原慶太(初)	中島宏昭(再診) 医局員(初)	医局員(初診) 中神和清(再)	鹿間裕介(初診)	笠原慶太(初診)	北見明彦(再)	医局員(初診)	中島宏昭(再)	中島宏昭(再)	医局員(初診)
消化器センター	医局員 小林泰俊 齋藤由理	大塚和朗 小林泰俊 出口義雄	田中淳一 井上晴洋 榎田博史	辰川貴志子(第1,3) 井上晴洋 榎田博史	請川淳一 乾 正幸 医局員	請川淳一 乾 正幸 遠藤俊吾	里館 均 長山裕之 医局員	大塚和朗 為我井芳郎(1)	大塚和朗 春日井尚	大塚和朗 池原伸直	大塚和朗 池原伸直	医局員 里館 均
循環器センター	磯村直栄	丸田一人	落合正彦	落合正彦	小原千明	黒子洋介(心臓血管外科)	荒木 浩	芦田和博	伊藤篤志(心臓血管外科)	伊藤篤志(心臓血管外科)	西巻博(第3)	医局員
メンタルケア(初)	工藤行夫(精神全般統合失調症)	櫻井英里子	堀 宏治(物忘れ初診)	堀 宏治	秋元洋一(精神全般記憶障害・PTSD)	吉益晴夫	吉益晴夫	工藤行夫	工藤行夫	工藤行夫	工藤行夫	西岡玄太郎(精神全般・うつ病)
メンタルケア(再)	板垣太郎	秋元洋一	西岡玄太郎	西岡玄太郎	吉益晴夫	吉益晴夫	吉益晴夫	工藤行夫	工藤行夫	工藤行夫	工藤行夫	堀 宏治
メンタルケア(再)	谷 将之	太田晴久	伊川太郎	伊川太郎	伊川太郎	伊川太郎	伊川太郎	伊川太郎	伊川太郎	伊川太郎	伊川太郎	小城幸乃
内科(緩和ケア)						新井一成						中村明央
内科(23-2)	宮下耕一郎(内科)	山本真寛(内科)	中澤あい(内科)	宮下耕一郎(内科)	菊嶋修示(循環器不整脈)	菊嶋修示(循環器不整脈)	中澤あい(内科)	熊田千晶(内科)	菊嶋修示(循環器不整脈)	川崎仁志(内科神経)	川崎仁志(内科神経)	菊嶋修示(循環器不整脈)
内科(23-3)	衣笠えり子(内科腎臓)	高橋 健(内科腎臓)			衣笠えり子(内科腎臓)	衣笠えり子(内科腎臓)	坂下暁子(内科血液)	坂下暁子(内科血液)	山本真寛(内科)	三井俊哉(内科神経)	三井俊哉(内科神経)	三井俊哉(内科神経)
内科(23-5)	坂下暁子(内科血液)	坂下暁子(内科血液)	福井俊哉(内科神経)	福井俊哉(内科神経)	三代川章雄(内科消化器)	熊田千晶(内科)	福井俊哉(内科神経)	福井俊哉(内科神経)	福井俊哉(内科神経)	福井俊哉(内科神経)	福井俊哉(内科神経)	三代川章雄(内科消化器)
内科(25-1)	稗田宗太郎(内科神経)	井上 穂(内分泌・代謝)	中山文義(腎)(第1火休診)	中山文義(腎)	稗田宗太郎(内科神経)	木村 聡(内科・感染症)	吉田典世(内科)	吉田典世(内科)	土屋静馬(内科)	土屋静馬(内科)	土屋静馬(内科)	大野恭史(内科)
内科(25-2)												医局員
内科(25-3)	田口 進(内科消化器)	小林功治(内科)	田口 進(内科消化器)	田口 進(内科消化器)	小井功治(内科)	小井功治(内科)	田口 進(内科消化器)					渡邊浩之(1,3)(内科)
内科(25-5)	荻原 徹(糖尿病・内分泌)	嶋田 顕(内科腫瘍)	嶋田 顕(内科腫瘍)	嶋田 顕(内科腫瘍)	荻原 徹(糖尿病・内分泌)	荻原 徹(糖尿病・内分泌)	嶋田 顕(内科腫瘍)	嶋田 顕(内科腫瘍)	荻原 徹(糖尿病・内分泌)	富田高重(第1火休診)(内科消化器)	富田高重(第1火休診)(内科消化器)	荻原 徹(糖尿病・内分泌)
内科(25-6)	吉田典世(内科)	伊東友弘(内科腫瘍)		大野恭史(内科)	女性専門外来(予約のみ)	伊東友弘(内科腫瘍)	緒方浩頭(内科腎臓)	成島道昭(内科)	伊東友弘(内科腫瘍)	伊東友弘(内科腫瘍)	伊東友弘(内科腫瘍)	緒方浩頭(内科腎臓)
内科(25-7)		成島道昭(内科)	辻 正富(糖尿病・内分泌)	辻 正富(糖尿病・内分泌)	伊藤英利(内科腎臓)	伊藤英利(内科腎臓)	辻 正富(糖尿病・内分泌)	辻 正富(糖尿病・内分泌)	伊藤英利(内科腎臓)	伊藤英利(内科腎臓)	伊藤英利(内科腎臓)	辻 正富(糖尿病・内分泌)
小児科	野中善治	神経外来	梅田 陽	乳児検診	北澤重孝	心臓外来	野中善治	成育外来	梅田 陽	梅田 陽	乳児検診	医局員
小児科	曾我恭司	予防接種	曾我恭司	700-777 外来	梅田 陽	腎臓外来(1,3,4)	曾我恭司	アレルギー-外来	京田学是	京田学是	700-777 外来	医局員
小児科	北澤重孝		野中善治	血液内科(4)心理相談	京田学是		松岡 孝	口腔発達(2,3)心理相談	井上真理	井上真理	上村茂(心臓)	医局員
小児外科		杉山彰英		大橋祐介		五味 明		大橋祐介			五味 明	杉山彰英(奇)医局員(偶)
皮膚科(初16-3)	宋 寅傑		濱口太造		佐々木雅美		濱口太造		宋 寅傑			医局員
皮膚科(再16-1)	濱口太造		宋 寅傑		濱口太造				宋 寅傑		光線療法外来	
皮膚科(再16-2)	佐々木雅美	外科手術	佐々木雅美	外来手術	鈴木佳宜	外科手術	鈴木佳宜	外来手術	佐々木雅美	外科手術	佐々木雅美	医局員
皮膚科(再16-2)	松村卓美		松村卓美		松村卓美		松村卓美		松村卓美		松村卓美	
外科	中村明央		新井一成		新井一成		新井一成	井関雅一(偶)岩波正英(3)	中村明央	岩波正英(第2,4)	中村明央	中村(奇)新井・山崎(偶)
外科			福成信博		山崎智巳		木庭雄至(予約のみ)	兼坂 茂(予約のみ)	福成信博			
形成外科	大塚尚治	美容外科ヒールリガ	医師限定		鎌田理恵(偶)岡本典子(奇)		医師限定		大塚尚治			大塚尚治(奇)岡本典子(偶)
脳神経外科(初再診)	池田尚人	(診断書外来)	【手術日】		池田尚人	(退院後外来)	飯田昌孝		池田尚人			飯田昌孝池田尚人(偶)
脳神経外科(再診)												池田尚人(奇)
整形外科	医局員(初診外来)	医局員	西山嘉信	医局員	逸見範幸	医局員	西山嘉信	医局員	逸見範幸	医局員	逸見範幸	医局員
整形外科	松久孝行	ギブス診予約のみ	古槻正洋		松久孝行	ギブス診予約のみ	古槻正洋		松久孝行	古槻正洋	定方博史	医局員
整形外科	川崎恵吉		石田将也		定方博史		川崎恵吉		石田将也			
産婦人科	佐々木康(奇)安藤直子(偶)		高橋 諄		高橋 諄(御子柴尚郎)		高橋 諄		高橋 諄		小川公一	医局員
産婦人科	近藤哲郎		小川公一		栗城亜具里		佐々木康		御子柴尚郎			
産婦人科	隅 靖浩		清河 翠	特殊診予約のみ			安藤直子		隅 靖浩		特殊診予約のみ	特殊診予約のみ
産婦人科	小川公一		安藤直子	特殊診予約のみ	佐々木康		高橋 諄		近藤哲郎		特殊診予約のみ	医局員
産婦人科			隅 靖浩		御子柴尚郎				隅 靖浩		栗城亜具里	
産婦人科			清河 翠						清河 翠			
泌尿器科(初診11-1)	椎木一彦	椎木(検査)予約のみ	青木慶一郎		菅原 草	深澤(再診)予約のみ	井上克己	小川雄一郎(奇)鈴木俊一(偶)	島田 誠			医局員(初再診)
泌尿器科(再診11-3)	島田 誠	島田(女性外来)予約のみ	菅原 草		青木慶一郎		椎木一彦	菅原(検査)予約のみ	井上克己			丸山邦隆予約のみ
泌尿器科(検査11-5)		特殊検査予約のみ		特殊検査予約のみ		特殊検査予約のみ		特殊検査予約のみ		特殊検査予約のみ		特殊検査予約のみ
眼科	井上吐州	特殊診(井上)	小池正直	特殊診(中村)	井上吐州		小池正直	特殊診(小池)	井上吐州			小池正直(奇)中村 徹(偶)
眼科	中村 徹		中村 徹	特殊診(小倉)	小倉寛嗣		小倉寛嗣	特殊診(小倉)	中村 徹	特殊診(中村)		井上吐州(奇)岡田法子(奇)
眼科	岡田法子	特殊診(岡田)	岡田法子		岡田法子	特殊診(岡田)	小倉寛嗣		岡田法子	特殊診(岡田)	小倉寛嗣	小倉寛嗣(偶)
耳鼻咽喉科13-1	門倉義幸(初診)	腫瘍甲狀腺外来予約のみ	医局員(紹介初診)		医局員(初診)	東洋医学外来寄数週予約のみ	油井健史	いびき外来予約のみ	医局員(初診)			医局員(初診)
耳鼻咽喉科13-2	大嶋健三(再)						門倉義幸(再)					
耳鼻咽喉科13-3	柳裕一郎(再)		歯科装具予約のみ(1)				石田 良(再)					
耳鼻咽喉科13-3	油井健史(再診)					補聴器外来K予約のみ					補聴器外来N予約のみ	

放射線治療の外来日は、月火木金： 馳澤憲二医師です。 リハビリ科外来日は、火曜日午後： 真野英寿医師です。 奇 = 奇数週 偶 = 偶数週 数字 = 診察日第 週